

平成30年度学校評価結果について(報告)

1 学校評価について、学校評議員(学校関係者評価者)から指摘があった主な事項と意見

事項	学習指導
意見	<p>○「公民(現代社会)」の授業を拝見したが、刑事裁判と裁判員制度をテーマに生徒たちが模擬裁判を行う中で、主体的かつ積極的に参加する姿が印象的であった。そうした特色ある科目や授業は、中学生の進路選択での動機付けにもつながるので、より力を入れても良いのではないかと。</p> <p>○「考えを伝えたり、他者の考えを理解する力が弱い」について、一般的な生徒指導だけで改善するには限界があるかと思う。授業などでグループワークをより積極的に取り入れるなど、他者を認めて自分の意見を発信する訓練の機会を増やしてはどうか。</p>
事項	生徒指導
意見	<p>開発的生徒指導の実現に向けた取り組みが見られます。さらに生徒のコミュニケーション能力の育成に、17名の「ライフスキル教育」プログラムの修了者がいることから、研修の成果を形にしても良いのではないかと。</p>
事項	特色ある学校、開かれた学校、地域連携 等
意見	<p>○科目履修生制度は幅広い方々が一堂に会する地域交流の場としても重要な役割をしており、さくらギャラリーと合わせて、地域連携・地域交流をさらに進めて欲しい。</p> <p>○学校新聞の発行は、開かれた学校づくりには欠かせないものであり、今後さらに充実させて欲しい。</p>

2 上記1を踏まえて、学校運営の改善に取り組んだ(取り組む予定の)事例及び成果(期待される成果)

事例	<p>○新学習指導要領の移行措置に合わせて、「田尻さくらの『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けての授業改善」というテーマを設け、その実現に向けて授業改善を行っている。具体的には、校内授業研究週間において、上記テーマに沿って、教科横断的に研究授業と合評会を行い、それらの結果を各教科に持ち帰り、テーマに沿った授業改善の研究を進め、多くの教員が実際の授業に結びつけつつあり、PDCAサイクルを実践している。また、「田尻さくら高的授業とは」という題で、本校初代の校長先生にご講演をいただき、多様な学習歴を持つ本校生徒にとって、よりふさわしい学習指導・生徒指導はどのようなものかについて考える機会を設けた。</p> <p>○「ライフスキル教育」については、直接的ではないが、次年度から始まる総合的な探究の時間の計画において、「コミュニケーション基礎」や「ソーシャルスキル」を盛り込み、部分的に「ライフスキル教育」の要素も取り入れる予定である。</p> <p>○次年度から、科目履修生「友の会(仮称)」をスタートさせる予定。</p> <p>○学校新聞「田尻さくら通信」は、今年度から毎月発行するようになった。特に、地域に対しては、田尻地域全戸分を用意し、公民館を通じて全戸に配布していただいている。</p>
成果	<p>○多くの教員が、授業をする上で「主体的・対話的で深い学び」の実現を意識するようになり、教材研究や授業形態にも変化が見られるようになった。中には、積極的に「主体的で深い学び」を意識した授業を展開したり、少人数の利点を生かし、教師が教壇から降りて、生徒と机を並べ対話を重視した授業形態を模索するなど、様々な工夫が見られつつある。</p> <p>○総合的な探究の時間におけるコミュニケーションやソーシャルスキルの重視は、卒業後の就職における離職率の高さへの対策として、その他の指導と合わせてある一定の効果が期待される。</p> <p>○科目履修生同士の横のつながりもさることながら、本校のサポーター的役割として、生徒や職員との交流も深め、異世代交流・地域連携・生涯学習をさらに推し進めるとともに、本校のさらなる発展を模索するきっかけとなり得る。</p> <p>○地域の方からの評判も良く、本校を理解していただくうえで大いに役立っている。</p>